

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：未来へつなぐ ～治水機能の維持と多自然川づくり～		
水系/河川名：富士川水系/稲瀬川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：42.4km ²	整備計画流量：140m ³ /s(W=1/30)	セグメント：1
事業：維持管理	事業開始年度	平成29年度
目標設定：なし	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(河床)		
配慮事項(主な)：掘削時の濁り抑制や浸食抑制		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

稲瀬川では、流下能力向上のため河川改良を実施してきたが、改良から10数年経過した箇所では多くの土砂が堆積し、河積を阻害している状況であった。

今回は近接する2箇所掘削工事を実施したが、住民の意向を反映させた土砂撤去を行った結果、一部では川らしさが失われてしまいました。そのため、2箇所目の工事箇所においては、なぜ川らしさが失われたのかを検討し、施工方法の見直しや課題を整理したうえで土砂撤去を実施した。

今後増加する維持工事において、地域住民とのコンセンサスに対応し、限られた予算、時間の中で、「治水・利水・環境」各々へ配慮しつつ工事を効率よく、かつ、適正に行っていくことが求められる。

<目標>

本河川は、流域の大半が山林であり土砂の供給が多いことや、縦断勾配の変化点に位置していたことから今後も土砂堆積による河積の阻害が懸念されたため、稲瀬川では、河川管理者が速やかに適正な判断ができるよう独自の管理台帳を作成していく。その取り組みが今後増加する維持管理業務において、多自然にどのように配慮したらよいかを考える検討材料になることを目指す。

取り組み内容・対策例

河道掘削工事事例 ～反省点の整理～

◆課題への対応

- 対応① … 広範囲にわたる水深の浅い箇所をなくす
- 対応② … 堆積にかかる年月を調べ、掘削範囲、方法を検討する
- 対応③ … 近隣住民や漁業関係者と情報共有を図る



- ・水深が浅く、流れが遅くなることは問題ない。ただし、水の滞留状況や、範囲を考慮することが必要
- ・土砂の堆積と天然河岸の侵食について、どれくらいの年月で変化が生じているかを確認する必要がある
- ・稚魚の放流時期（遡上時期）、農水として利用時期、量を的確に把握した上で土砂撤去を行う

撤去後のイメージ

過去の資料確認

関係者からの情報収集



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ①左岸側は天然河岸であったことから掘削面に横断勾配を設け、流路は既存の通り右岸を流れるようにした。
- ②掘削時の濁りを最大限抑制するため、施工の下流域には簡易な沈砂池を設けた。
- ③川の流れが直線だったのに対し、出水後は蛇行している。
- ④深さは80cm程度であるが、淵が形成され、縦断の変化が生じた。
- ⑤施工前は見つけることが難しかった水棲生物も、半年後の調査時には多くの生き物を確認することができた。

<今後>

管理台帳の作成を検討・・・河川管理者の誰もが時間をかけずに適正な業務を行えるようにする。



備考

地域住民の方々は、過去に浸水被害等が発生したこともあって、河川管理に対する意識が非常に高く、今回の施工前においても住民要望は土砂撤去のみであったが、生き物が多く見られたこともあって、住民の方々は今後は多自然に配慮する河道掘削を要望したいという意識が変わった。

問い合わせ先 静岡県 富士土木事務所 工事課富士宮班

電話番号 0544-27-1111

未来へつなぐ ～治水機能の維持と多自然川づくり～

Keywords : 流下能力の確保, 瀬・淵の創出, 掘削 (河床)

Before

土砂堆積



堆積状況 (H29.12)

After

土砂除去

淵の創出

瀬の創出



掘削後6か月 (H30.9)

稲瀬川では、昨今の出水や地形の条件により多くの土砂が堆積していたことから、土砂掘削工事を実施した。

今後増加する維持工事において、地域住民とのコンセンサスに対応し、限られた予算、時間の中で、「治水・利水・環境」各々へ配慮しつつ工事を効率良く、かつ、適切に行うための管理体制を構築する。